

# シン・オキノハラ

季刊誌  
10月号  
vol.05

OKINOHARA

OKINOHARA

OKINOHARA

OKINOHARA

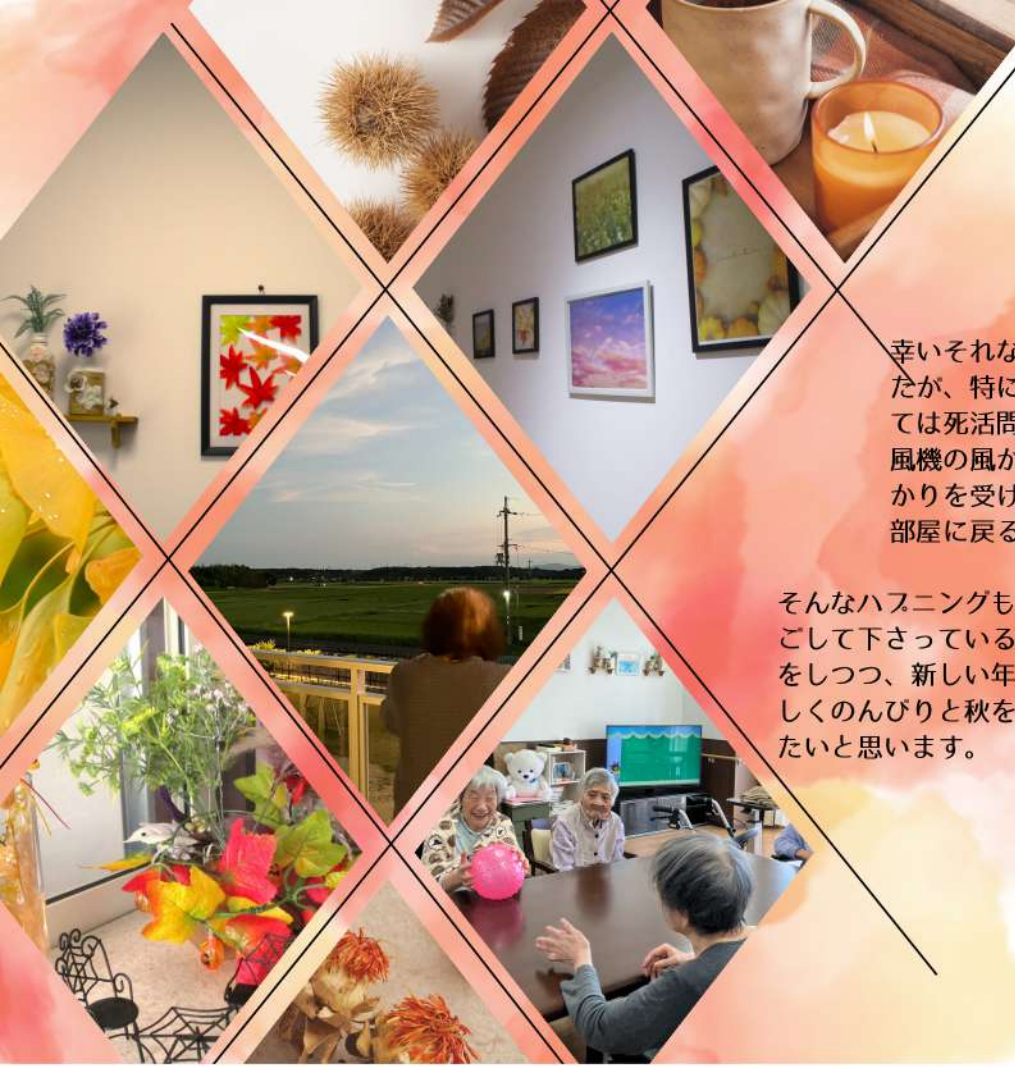


## 敬老会

うどん実演  
バルーンアートショー  
マジックショー  
天ぷら実演

今年の夏は一段と長く感じる夏でしたが、ようやく秋の訪れが感じられるようになってきました。秋といえば味覚の秋、芸術の秋、スポーツの秋、読書の秋などさまざまなイメージがふくらむ季節ですね。オノ・ヨーコは秋についてこう言っています。

Autumn passes and one remembers one's reverence.  
秋が過ぎ去り、人は自分の崇敬の念を思い出す。  
これは春から冬までのそれぞれの季節が、人生において異なる役割を果たしさまざまな教訓をもたらすと伝えている言葉の1節です。  
その中で秋は敬意や感謝を思い出させる季節だと。秋は収穫の季節であり、人々は豊かさや感謝の気持ちを持つことが多い時期であることが理由だそうです。  
今年は短い秋になりそうですが、短い中でも敬意や感謝をたくさん感じて過ごしていきたいものです。そうしみじみ思うなか、沖野原の秋の始まりは敬老会！いつもは食欲のない方も、手打ちうどんや目の前で挙げられた天ぷらを何度もおかわりされ「おいしい！」と喜んでいただけたようでうれしい限りです！



特養です。家電ってどうしてもここぞというタイミングで故障するのでしょうか。既存側の特養では開設から10年以上を経過している事もあってか、浴室脱衣場のエアコンが！ユニットのエアコンが！と立て続けに故障。

幸いそれなりに早い対応で交換や修理を行って頂きましたが、特にこの暑い時期の浴室のエアコンは職員にとっては死活問題！交換までの期間は扇風機で乗り切り、扇風機の風が直接当たると入居者様より「寒い！」とおしかりを受け。入居者様にとっても入浴後のサッパリ感が部屋に戻るまでの我慢の時期がありました。

そんなハスニングもありながらも元気に過ごして下さっている入居者様・職員に感謝をしつつ、新しい年に向けぼちぼち特養らしくのんびりと秋を楽しんで過ごして行きたいと思います。

July-September

# OKINO NEWS



職員のダンスや、出し物で笑顔があふれていました。

## 夏祭り

「よーし、これを取るぞ」「なかなかむつかしいなあ」と真剣に参加しておられました。



## 日常

CUTE!

かわいい交流

どむどむ交流会

yummy

流しそうめん

手作り昼食

何回も流れて来るそうめんを全て器に入れる欲張りな方も！

## 栄養士だより



今季は移動販売やうどん実演、天ぷら実演を行い利用者様に五感で楽しんでいただきました。食欲の秋、美味しい物をたくさん提供できればと思います。



～移動販売～  
キラキラあんみつ  
～敬老会～  
天ぷら実演  
手作りうどん



猛暑日が続いた暑い夏も終わり、朝晩の風が心地よく感じる季節になりましたね。湿度も下がり、そろそろ肌の乾燥が気になり始める頃ではないでしょうか。今回は高齢者のスキンケアについてお伝えしたいと思います。

「スキンケア」というと美容のイメージが強いかもしれませんが、高齢者の方にとって普段のスキンケアはとても大切なことです。皮膚は加齢に伴い薄くなり、弾力性が低下します。また、皮脂や水分量の減少により皮膚が乾燥します。このような皮膚は外部からの刺激に対し弱く、皮膚が傷つき剥離することもあります。また、寝ている時間の長い方であれば床ずれができることもあります。そうすると治るまでに時間を要し、傷口から感染を引き起こしてしまうこともあるのです。そうならないためにも日頃からのスキンケアを心がけていただけたらと思います。

- ・身体を洗う洗剤は皮脂を落とし過ぎない弱酸性のものが良いでしょう。
- ・洗剤はしっかり泡立て、優しく洗いましょう。皮膚をゴシゴシと強くこするような洗いは皮膚を傷つけるので避けましょう。
- ・入浴時の湯温は38～40℃で長湯にならないようにしましょう。熱すぎるお湯や長湯は乾燥につながります。
- ・入浴後はなるべくすぐに保湿剤を塗りましょう。保湿剤はのびのいいローションタイプややわらかいクリームタイプのものが良いでしょう。保湿剤もこすりつけず優しく塗りましょう。
- ・オムツを使用されている方はオムツ内が蒸れ、排泄物の刺激で皮膚がただれ床ずれができやすくなるので、水分をはじくワセリンなどをお尻全体に塗ると効果的です。

スキンケアのポイント

Vice-Director's column

—2—

Keigan

ケイガン

今回は沖野原の介護スタッフの高齢化問題の話。といっても介護スタッフの平均年齢が以前は高かったという過去の話。実際にはこの1年の間に大きく平均年齢は下がりました。

報道などでも取り上げられることもありますが、介護スタッフの高齢化は介護業界の課題の一つです。誤解が無いように伝えますが、高齢のスタッフを退職させたというような怖い話ではありません。

単純に採用するスタッフの年齢が20代、30代という事です。ではなぜそれが可能になったのか？

子育て世代の雇用に照準を合わせたからです。施設の考え方にもよりますが、子育て世代は夜勤がムリ。土日祝の出勤がムリ。固定時間だからムリ。採用しても勤務体制が充実しないという観点から採用ターゲットの対象から外れやすい。特に入所型施設は・・・

そのため子育て世代はデイサービスに務めるケースが一般的です。しかし考え方を変えれば、固定時間の子育て世代のスタッフを採用し配置を増やすことにより、フルタイムメンバーの業務負担部分を吸収する。その配置を増やせば増やすほどフルタイムメンバーの負担が軽減していく。未だ完成形には至ってはいませんが、フルタイムメンバーは夜勤を含むシフト体制を機能させる負担を負い、固定の育児世代メンバーは業務の負担を負う。シフト体制、業務の二重負担に比べれば半分の負担は担ってもらえるというシステムです。育児世代スタッフの業務負担もデイサービスの送迎や時間に追われる負担と比較すれば、決して負担レベルは高くないように配慮しています。双方が互いの役割を理解し共有すればwinwinな関係となるのです。

これが沖野原スタッフの平均年齢が下がった仕組みです。この話は入所型施設の配置体制の矛盾の話に繋がるのですが、そちらはまた次回お話ししたいと思います。

～副理事長～

